

教育方法の基礎的な指導技術に関する考察

豊田 昌幸*・永田 博**

(2020年10月21日受理)

Study on the fundamental teaching methods for teachers

Masayuki TOYODA and Hiroshi NAGATA

キーワード: 基礎的な指導技術, 教材研究, 学習指導案, 板書, ほめ方・叱り方

学校教育の中で児童生徒を健全に育成するためには、教員が教育の目的に適した基礎的な指導技術を理解し、それらを身に付ける必要がある。そのような指導技術について、各県で発行している教員ハンドブック等の内容を比較し、考察する。具体的には、茨城県の教員ハンドブックで取り上げられている基礎的な指導技術と他県の教員ハンドブック等で取り上げられている基礎的な指導技術を比較し、その特色を明らかにするとともに、指導技術の内容及び指導する際の留意点等について考察する。

はじめ

ベテラン教師の大量退職に伴い、教育現場では、若手教師の数が増大し、急速に世代交代が進んでいる。そのような中で、教育現場で積み上げてきたベテラン教員が有している基礎的な指導技術を若手教員に伝えていくことが求められている。本稿では、次の世代につないでいくべき基礎的な指導技術の一端を取り上げその内容等について考察する。

対象とする基礎的な指導技術として、日常の教育活動時間の大半を占める学習指導に関わる「教材研究」、「学習指導案」、「板書」、「ほめ方・叱り方」を取り上げる。調査の方法としては、10の県の教員ハンドブック等(※名称は県によって若干異なる)を調査対象とする。

具体的には茨城県の教員ハンドブックで取り上げられている「教材研究」、「学習指導案」、「板書」、「ほめ方・叱り方」の4つの基礎的な指導技術と他県のハンドブック等のそれらを比較し、茨城県のハンドブックの特色を明らかにするとともに、取り上げた4つの指導技術の内容及び指導する際の留意点等について整理し、考察する。

*茨城大学教育学研究科 **茨城大学教育学研究科

比較の対象とする各県の教員ハンドブック等は下記の通りである。

- 1 茨城県:「教員ハンドブックー信頼される教師を目指してー」 茨城県教育委員会
2020年 (以下「茨城版」という。)
- 2 福岡県:「実践的指導力を高める 初任者ハンドブック」 福岡県教育センター
2018年(以下「福岡版」という。)
- 3 富山県:「教員研修ハンドブック」 富山県教育委員会
2019年(以下「富山版」という。)
- 4 山形県:「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりハンドブック」
山形県教育センター 2013年(以下「山形版」という。)
- 5 島根県:「学習指導の基本を身に付けよう授業づくりQ&A～『よい授業を目指して～』」
島根県教育センター浜田教育センター 2011年(以下「島根版」という。)
- 6 神奈川県:「小学校初任教員のための授業づくりハンドブック」
神奈川県立総合教育センター 2009年 (以下「神奈川版」という。)
- 7 愛媛県:「分かる 考える 伸びる 授業づくりの基礎・基本 ～10のポイント～目標と指導と
評価の一体化を目指して」 愛媛県総合教育センター 2015年 (以下「愛媛版」という。)
- 8 鳥取県:「教員研修ハンドブック」(初任者, 2年目, 3年目教員用) 鳥取県教育センター
2020年 (以下「鳥取版」という。)
- 9 徳島県:「とくしま 授業技術の基礎・基本」 徳島県立総合教育センター
2020年 (以下「徳島版」という。)
- 10 奈良県:「教職員のための研修ハンドブック」 奈良県立教育研究所
2017年 (以下「徳島版」という。)

なお、本論文は、豊田が1～2頁, 4～13頁, 永田が2～4頁『「教材研究」について』を執筆した。

「教材研究」について

1 茨城版の主な内容 (概要) 【茨城版:P43-44】

- (1) 何を指導するのかをしっかりと把握することー指導目標の明確化ー
学習指導要領や文部科学省の解説・指導資料などを基に指導内容を把握するとともに、目標を達成した児童生徒の姿を明確にし、評価できるようにしておくことが重要である。
- (2) いつ指導するのかを押さえることー指導計画への位置付けー
1時間の授業の指導計画について考えたいことは次の三つである。
 - 授業の最初の段階(導入の段階)
児童生徒の意欲を高めるという点で工夫したい。
 - 授業の中盤の段階(展開の段階)
児童生徒に考えさせたり、発表させたり、作業をさせたりする時間をどこに位置付けるかを考える。
 - 授業の最終段階(終末の段階)

指導内容を整理させたり、次の学習へのつなぎや目標の達成状況を確認させたりする。

(3) どのように指導するかを考えることー指導方法の確立ー

○ 教材の決定

児童生徒の身近なものや経験したこと、興味や必要感がある事柄などを、指導目標に合わせて教材に使うことを検討する。

○ 教具の決定

教師側で使うものと児童生徒に使用させるものの両方を考え準備したい。特に、小学校低学年では、板書だけの指導は難しく、中学校、高等学校でも、できるだけ具体物を見せたり、操作させたりすることが学習意欲を喚起する上で役に立つ。特に、ICT機器の活用を図る。

○ 学習形態の決定

一斉授業だけでなく、4人グループ、隣席とのペア、コの字型など、ねらいや活動内容に合わせていろいろな学習形態を工夫する。

○ 一人一人が十分に活動できる方策の検討

児童生徒が主体となって、活動を通して学ぶという考えから、できるだけ、全員を1時間の授業の中で活動させる。目標を達成させることを前提として、活動内容やその方法を十分に検討したい。指名して答えさせる場合、だれをどのような順で指名するかなども考える。

(4) その他、教材研究の内容として取り上げたいこと

児童生徒の実態把握（既習事項の定着状況）、個に応じた指導の手立て（机間指導、発問など）の検討、板書の仕方を工夫

2 他県版との比較から見える茨城版の特色

特色のひとつは、教材研究に割り当てる頁分量が多い点である。教材研究(項目として掲げられている部分)について掲載のある県版と割り当てである頁数を概数で示すと、神奈川版8頁、徳島版2頁、島根版1頁、鳥取版0.5頁、愛媛版0.5頁、富山版0.25頁、奈良版0.25頁であるのに対して茨城版は2頁である。限られた紙面の中で、茨城版は、比較的によくの頁数を当てている。茨城県が教材研究を重視している表れだと考える。

二つ目の特色は、「学習指導」の側面を重視して教材研究を捉えている点である。茨城版の項目の見出しを見ると、「何を指導するのかをしっかりと把握することー指導目標の明確化ー」「いつ指導するのかを押さえることー指導計画への位置付けー」「どのように指導するかを考えることー指導方法の確立ー」となっており、指導の側面を重視して教材研究を捉えている。一方、神奈川版、鳥取版、富山版、徳島版は教材研究を「教材分析」「児童生徒理解」「学習指導」の3分野から捉え、奈良版・島根版は「教材分析」「学習指導」、愛媛版「教材分析」「児童理解」の2分野から捉えている。

三つ目は、茨城版では教材研究の定義が示されていない点である。これは、よさという意味としての特色とは言い難いが、鳥取版、富山版では最初に定義を示してから教材研究の内容説明に入っている。最初の段階で定義を示すことで理解しやすくなるという利点がある。定義が示されていない理由としては、教材研究という用語が説明を要しない自明の用語であり、なくても全体として違和感がないためであろう。四つ目は、茨城版は項目の見出し文の語尾、「～把握すること」「～押さえること」「どのように指導するかを考えること」から分かるように教材研究をするにあたっての配慮点を示している。島根版、福岡(平成4年度)

調査研究 教師が身に付けておきたい技術(2012年 福岡県教育センター2-3.)では、教材研究を進めるにあたって、どのような手順やステップを追って行っていくのか、具体的に示してある。初任者にも分かるよう工夫した記述がみられる。

3 他県のハンドブックから学ぶべき参考例

茨城版では取り上げていない、他県版から学ぶべき内容を参考例として紹介する。

[教材研究の定義]

教材研究とは、教師が毎時間の授業に際して、あらかじめ扱う教材(素材)を研究し、児童生徒の発達段階、興味・関心に応じてその指導の過程を組み立てる作業である。 [鳥取版 P66]

教材研究とは、教材分析を通して教材の特質を把握し、単元・題材のねらいや指導目標に照らし合わせて指導内容、指導方法等を事前に研究することです。 [富山版 P21]

[教材研究の3視点]

① 教材分析

- ・教材(素材)をじっくり検討し、教材の価値を見出す。
- ・学習指導要領の目標・内容とのつながりを考える。

② 児童生徒の実態把握

- ・児童生徒の実態を把握し、動機付けや興味・関心に基づく指導を考える。
- ・先行経験や既習事項も確認する。

③ 学習指導(活動)

- ・教材分析と児童生徒の実態把握を重ね、実態に応じた適切な学習指導を展開する。
- ・明確な目標を立てる。
- ・発問の工夫と発問に対する反応を何通りか予想する。
- ・予想される反応に対する支援を考える。

[鳥取版 P66]

教材研究の3視点の中で「①教材分析」「②児童生徒の実態把握」を乗り越えて「③学習指導(活動)」を重視しがちである。確かな学力を育成するためには①の視点が、児童生徒が主体となる学習を実現するためには②の視点が重要であると考えられる。

「学習指導案」について

1 茨城版の主な内容(概要)【茨城版:P46-48】

(1) 各教科における学習指導案の立て方

① 学習指導案とは

授業は、児童生徒が主体的に学び、より望ましく成長することを期待して行うものである。そのために教師は、指導目標や指導内容を明確に押さえ、より適切な教材を用意する必要がある。

② 学習指導案の例

(※茨城版では下記の指導案の他に「特別支援学校の例」が掲載されている。その指導案は省略)

第○学年○組○○科 学習指導案											
			指導者 ○○ ○○								
1	単元(題材)名										
2	単元(題材)の目標	※学習指導要領に示された目標、内容を踏まえて設定する。 ※単元(題材)における到達目標を具体的に記述する。									
3	単元(題材)の評価規準	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">関心・意欲・態度</th> <th style="width: 25%;">思考・判断・表現</th> <th style="width: 25%;">技能</th> <th style="width: 25%;">知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;"> ※評価の視点は、教科によって異なる。(国語等で重点化を図った場合は、「2 単元(題材)目標」と整合させること。) ※単元(題材)の内容を捉えた児童生徒の具体的な学びの姿がイメージできるようにする。 </td> </tr> </tbody> </table>		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	※評価の視点は、教科によって異なる。(国語等で重点化を図った場合は、「2 単元(題材)目標」と整合させること。) ※単元(題材)の内容を捉えた児童生徒の具体的な学びの姿がイメージできるようにする。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解								
※評価の視点は、教科によって異なる。(国語等で重点化を図った場合は、「2 単元(題材)目標」と整合させること。) ※単元(題材)の内容を捉えた児童生徒の具体的な学びの姿がイメージできるようにする。											
4	単元(題材)について										
	(1) 教材観	※既習事項や発展を見通した単元の系統性、主眼点、教材の価値を記載する。									
	(2) 児童生徒観	※前単元での評価を踏まえた学習状況調査やアンケート調査の結果、補助簿、評価カードの記録等から具体的に分析する。									
	(3) 指導観	※単元(題材)の目標を達成するために、どのような指導や手立てを、どこで、どのように行うのか、単元の学習過程を見通して具体的に書く。									
5	指導と評価の計画(学習計画)										
	時	主な学習活動	指導及び留意点								
		※1 単位時間の目標にあった内容を精選して書く。どの観点の力を重点的に育てるかを書く。									
6	本時の学習										
	(1) 目標(育成を目指す能力)										
	(2) 準備・資料	※学習に必要なワークシート、教育機器、資料等を記入する。									
	(3) 展開	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">学習活動・内容</th> <th style="width: 50%;">指導上の留意点(◎評価)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 1 ……学習の進め方について話し合う。 ※予想されるつまずきへの対応、学習課題を解決した児童生徒への対応策を具体的に記述する。 </td> <td> ・～でつまずいている児童には、「○○」と問うことで～に気付くようにする。 ◎～に必要な条件を示しながら○○についてまとめている。 </td> </tr> </tbody> </table>		学習活動・内容	指導上の留意点(◎評価)	1 ……学習の進め方について話し合う。 ※予想されるつまずきへの対応、学習課題を解決した児童生徒への対応策を具体的に記述する。	・～でつまずいている児童には、「○○」と問うことで～に気付くようにする。 ◎～に必要な条件を示しながら○○についてまとめている。				
学習活動・内容	指導上の留意点(◎評価)										
1 ……学習の進め方について話し合う。 ※予想されるつまずきへの対応、学習課題を解決した児童生徒への対応策を具体的に記述する。	・～でつまずいている児童には、「○○」と問うことで～に気付くようにする。 ◎～に必要な条件を示しながら○○についてまとめている。										

③ 学習指導案に記載すべき主な項目・内容について

ア 単元(題材)の指導目標の設定

- 学習活動を児童生徒のよさや可能性を發揮しながら自己実現を図る活動として捉え、指導目標を設定する。
- 「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」を身に付けることを重視して、指

導目標を設定する。

- 児童生徒が適切に設定した学習目標を基に学習活動が行えるよう指導することを重視する。

イ 学習指導と評価の計画

単元(題材)全体の指導時間, 手順を示すもので, 各学年の年間指導計画を参考にして作成する。学習指導要録の「観点別学習状況の評価」の4観点それぞれに対応して書く必要がある。

ウ 本時の目標

この学習指導案によって, 何を指導しようとしているのか理解できるように, 学習指導要領の内容に沿って具体的に書く。「～ができる。」「～を言うことができる。」など, 具体的な行動目標の形で書く。

エ 展開

②で示した「学習指導案例」は基本的なものである。学習活動の部分は, 児童生徒側に立って書く。例えば, 「～について話し合う。」「練習問題を解く。」などである。ここを読むだけで, この時間の児童生徒の活動が授業を参観する以前に, 理解できるように具体的に書く必要がある。「指導上の留意点・評価」の欄は, 児童生徒の学習活動について具体的にどういふことに留意して指導するかを書く。また, 評価の観点, 規準を明示する。

2 他県版との比較から見える茨城版の特色

特色のひとつは, 学習指導案に割り当てる頁数が多い点である。学習指導案(項目として掲げられている部分)について掲載してある頁数を概数で示すと, 島根版2頁, 奈良版 1.5 頁, 鳥取版1頁, 富山版 0.5 頁であるのに対して茨城版は3.5 頁である。限られた紙面の中で, 茨城版は, 他県に比べて非常に多くの頁数を当てている。茨城県が学習指導案を重視している表れだと考える。

二つ目の特色は, 具体的な学習指導案の例を示している点である。具体的な学習指導案例を掲載しているハンドブックは, 調査した9県の中で, 茨城版, 富山版, 島根版, 奈良版の4つである。しかも茨城版では, 特別支援学校の例を含めて2つの種類の学習指導案例を掲載している。

三つ目は, 学習指導案を構成する多くの項目について具体的に分かりやすい説明をしている点である。茨城版では, 学習指導案を構成する項目として「単元(題材)の目標」, 「単元(題材)の評価規準」, 「単元(教材)の教材観・児童生徒観・指導観」, 「指導と評価の計画(学習計画)」, 「本時の学習の目標・準備資料・展開」を示し, その全てに本文と学習指導案例の中で説明を加えている。3.5 頁の紙面を使い, 詳細にわたって, ていねいに解説をしている。

3 単元(題材)という長いスパンの中で指導全体が見通せる学習指導案

新学習指導要領(H29)においては, これまで1時間単位の学習指導案から, 単元や題材といった長いスパンの学習指導案への転換が求められている。調査対象としたハンドブックにはそれに当たる学習指導案が示されていなかった。茨城版の学習指導案例を基に, それを修正して単元(題材)全体が見通せる学習指導案例を示すとすれば, 下記の様になる。

【単元（題材）の全体が見通せる学習指導案例】

第○学年○組○科 学習指導案			
			指導者○○○○
1		単元（題材）名	
2		単元（題材）の目標	
3		単元（題材）の評価規準	
4		単元（題材）について	
5		学習の計画と評価（5時間扱い）	
次	時	学習内容・活動	指導上の留意点（◎評価）
1	1		
2	2		
	3 本時		◎～に必要な条件を示しながら○○についてまとめている。（思考・判断・表現）【観察・ワークシート】
	4		
3	5		

従来の基本的な学習指導案例（茨城版）と異なる点は「5 学習の計画と評価」「6 本時の学習」の部分である。簡単に言うと、従来の「本時の学習」の展開部分をより精選した内容にして「学習の計画と評価」の中に組み込んでいくというイメージである。「本時の学習」で示していた目標は「（◎評価）」の中で反映し、準備・資料は指導上の留意点に記載する。

「5 学習の計画と評価」は、1時間毎の「学習内容・活動」及び「指導上の留意点（◎評価）」を詳しく記載することになるので、内容・行数は増える。このように改善することで単元（題材）の全体が見通せる学習指導案になると考える。

「板書」について

1 茨城版の主な内容（概要）【茨城版:P108】

茨城版では「Q：板書をするときは、どのようなことに留意すればよいでしょうか。」という「Q & A」方式の中で、始めに、板書をするときは、板書事項を精選し、学習の展開に沿って理解や思考の助けとなるように努めることを述べ、その後で、次の二つに絞って板書について述べている。

【機能的・構造的な板書のメリット】

板書例 算数

〇月〇日 「百分率」

問題 ある会場に小学生が集まりました。集まった小学生100人の内40%が女子でした。女子の人数は何人ですか。答えを書きましょう。また、求める式を書きましょう。

学習問題 比べられる量の求め方を考えよう

Aさん 白さん Cさん
式 $100 - 60 = 40$ 式 $100 \times 0.4 = 40$ 式 $100 \div 0.4 = 250$
答え 40人 答え 40人 答え 250人

(答えは40人、250人)
250人だと100人より多い → 40人が正しいぞ。

(かけ算、ひき算)
もし集まった小学生が60人だったら $60 - 60 = 0$ 0人になる → ひき算では求められない。
 $60 \times 0.4 = 24$ 24人になる $100 \times 0.4 = 40$ が正しいぞ。

学習のまとめ 比べられる量の求め方
比べられる量 = もとにする量 × 割合
※ 百分率(%)で表されているものは、少数に直して計算する。

学習問題 定価200円のリンゴがあります。スーパーの安売りで、定価の70%で売っていました。いくらで売っていたでしょうか。

板書例 国語

共通点 いのち
男の子とおじいさん
中心人物に大切なことを教えてくれる
生き物を大切にしている
自然を大切にしている

相違点 自然が最も強く語りかけてきたこと
自然の恵み
生き物や自然を大切にしている
いのちの大切さ
自然はなくてはならない
千びきに一びき

読み視点 読み視点
登場人物
出来事
会話文
描写

相違点 海のいのち
中心人物の性格
活発
くっつき強
自然の中
長い時間の姿
父親は死んだ
おとう
クエを殺さなかった

挿絵 山のいのち
話さない
山
コンクリートの家
ひび割れた床
父親は外国へ出張
イタチを殺した
パパ

立松和平氏のシリーズを本のショーウィンドウでおすすめしよう
海のいのち
立松 和平
「物語が最も強く語りかけてきたこと」とは何かを話し
合い、自分の考えを深め、まとめよう。

- 学習活動への手掛かりやヒントを与え、思考を促進する。
- 全員で思考し問題解決を図る場を与えることができる。
- 視覚を通して学習内容やその要点を明確にし、焦点化することができる。
- 指導の過程が分かり、学習の評価に活用することができる。

【板書の留意事項】

- 前もって教材を十分研究して、板書の計画を立てておくようにする。
- 教師が黒板に書いて範例を示す。特に、小学校低学年では、児童に板書を注視させる。
- 全体の児童生徒から見えるくらいに書く。誤字、脱字や筆順に注意する。黒板に刻み込むように力強く書く。文字の大きさは、発達段階に、または、児童生徒の実態に合わせて書くことが望ましい。
- 色チョーク、囲みわく、図式化、簡略化など様々な工夫を取り入れ、板書に変化をつける。
(赤と緑などの色の区別が苦手な児童生徒もいるので、色チョークは黄色を使うなど配慮する。)
- 小黒板やカード、掲示物、ICT 機器、実物投影機など、他の教具との併用を考慮する。
- ノート指導との関連を考え、板書に留意する。(ノートに全部視写させるという意味ではない。)
- 発問との関連を考え、いつ、どういう事項を、どのように板書していくか、十分想定しておく。
- 児童生徒の発言に耳を傾け、その要点を板書に生かすようにする。
- 児童生徒がノートをとる時間を十分に確保するようにする。

最後に、準備した板書計画がよりよい板書となること、常に自分の板書の仕方を振り返り、反省して、よりよい板書構成に努力すること等について述べている。

2 他県版との比較から見える茨城版の特色

板書について取り上げているのは 10 県版中、9 県版が取り上げており、どの県においても板書を重要な指導技術と捉えていることが分かる。茨城版は板書に1頁を割り当てている。2頁以上割り当てているのは徳島版と山形版であり、茨城版は概ね平均的なレベルである。板書の留意事項については9つ挙げており、基本的な技術ポイントを押さえている。

特色を挙げるとすれば、板書例を載せている点である。板書例を挙げているのは、10 県中5県であるが、その中で、算数・国語の2教科、縦書きと横書きの二つの板書例を載せているのは茨城版だけであ

る。文章説明だけではわかりにくい部分を板書例で示し、それと照らし合わせることでより具体的に理解できるように配慮がされている。

二つ目の特色は、機能的・構造的な板書のメリットを前半部分でいねいに説明している点である。他県版においては、板書する上でのポイントを示していることが多い。茨城版は板書する上でのポイントだけでなく、そのメリットを示している。こうすることで理解がより深まると考える。惜しまれるのは、メリットに書かれている内容が板書例のどの部分から、そう言えるのかかが明確でない点である。矢印等で説明内容と板書例を結びつけながら説明するとより分かりやすくなると考える。

3 他県版のハンドブック, その他の文献等から学ぶべき内容

茨城版では、取り上げられていない、他県版から学ぶべき内容を参考例として紹介する。

[板書量]

- 1時間単位に黒板1枚程度
 - ・書いたら消さないようにする。1枚に収まらないときは、補助黒板等を使用する
 - ・黒板の下の方や両脇には書かないようにする。

徳島版P3

[立ち位置]

<基本的な3つの立ち位置>

- 全員に話すとき
教室の中央に立ち、全員に目線を合わせながらゆっくり、はっきりと話します。身振りや手振りを使って、表情豊かに話します。子ども達の反応を確かめながら話すことが大切です。特に、つぶやきは聞き逃さないようにします。よい反応があったらたくさん誉めます。
- 板書するとき
黒板に対して4、子どもに対して6の割合で体を開きます。子どもに背を向けて板書するなど、黒板に話しかけないようにします。また、黒板の下部に書くときは、自分の体で手元が見えなくなるので、しゃがみ腕を伸ばして書きます。
- 子どもが発表しているとき
黒板の端に立ち、発表者へも目線を送ります。この時、先生は「なるほどね」「どうしてそう思ったの?」と声をかけ、「みなさんはどう思いましたか?」と助言をして他の子どもの発言をうながすと話し合いが活発になります。

「平成24年度調査 教師が身に付けておきたい技術」 福岡県教育センター P18

[行替(ぎょうが)えの仕方]

行替(ぎょうが)えするときは、単語・文節を分断しないこと。単語や文節が行またがりになると、読みにくく、不自然なイントネーションを誘うことにもなる。板書では、一行の字数や長さは不ぞろいでよい。黒板上で整然としていることより子ども達の読み易さを優先すること。助詞・助動詞は、原則として行頭に置かないこと。

文部科学省 (HP) 「補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/005.htm, 2020年6月30日20時52分閲覧.

4 板書の構造化について

板書の構造化が重要であると言われているが、その意味・定義については一様ではない。板書の構造化について説明している記述箇所には次のようなものがある。

- ・めあてからまとめにいたる道筋が分かるようにしましょう。(並びや位置の検討) 愛媛版 P11
- ・思考を整理したり促したりする板書, 思考の過程を振り返ることのできる板書
「新大分スタンダードの進め」(パンフレット)平成31年3月(第3版) 大分県教育委員会
- ・黒板全体を一つの図として構成したものです。書かれた一つ一つの要素が次第につながり合い、全体の意味がわかるようにしていきます。
「平成24年度調査 教師が身に付けておきたい技術」 福岡県教育センターP17

上記の記述及び各県版に示されている板書例を参考に定義すれば、板書の構造化とは「黒板全体をひとつの図と見立てて、課題・予想・児童の考え・調査・実験結果・まとめなどの板書の要素を学習の過程が分かるように配置したり、異なる子供の意見を対比させて思考を促したりするなど、学習効果が上がるよう黒板に書く内容をレイアウトして書き表すこと」と捉えることができる。

「ほめ方・叱り方」について

1 茨城版の主な内容(概要) 【茨城版:P138】

茨城版では「Q:児童生徒をほめたり叱ったりするときには、どのようなことに配慮すればよいでしょうか。」という「Q&A」方式の中で、ほめ方・叱り方について説明している。その内容は、「だめなことは、だめ!」と律しつつも、児童生徒のよいところ、進歩したところに目を向けて、「ほめること」を基本にして、具体的な例を示しながら以下の4つのことを述べている。

1 行為(事実)を取り上げて叱る

ある行為を叱る場合は、その行為を具体的に取り上げて叱ります。人格を否定したり、他の人と比べたり、不公平にしたり、皮肉を言ったりすることは厳に慎まなければならない。

2 一貫性を保つ

児童生徒に関わる際には、進歩が見られたらほめる、努力が認められたらほめるなど基準を明確にするように心がけること、誰に対しても同じ基準で叱るという一貫性が大切である。

3 行為の背後にある児童生徒の心情等に目を向ける

行為の背後にある児童生徒の心情、家庭環境等にも目を向けてみるのが大切である。

4 児童生徒の側に立つ

児童生徒の発達の段階に応じた心理的特徴を理解し、ほめたり、叱ったりする場所や方法についても十分に配慮することが必要である。また、児童生徒の性格によって、ほめたり叱ったりすることの心理的な影響や効果が異なります。児童生徒理解のもと、指導に当たることが大切である。

2 他県版との比較からみえる茨城版の特色(他県版との違い)

特色のひとつは、ほめ方・叱り方を取り上げている点である。ほめ方・叱り方を取り上げているのは10県版中、茨城版、神奈川県版、鳥取版の三つである。ほめる・叱るは、日々の教育活動の中で避けて通れない行為であり、児童生徒の意欲を喚起したり、自己を見つめ直すきっかけとなったりする重要な教育的行為である。若手教員が身に付けるべき基礎技術である。ほめ方・叱り方を取り上げ、それを掘り下げて説明していること自体が茨城版の特色であり、よさである。

二つ目は、具体例を示している点である。上記の概要では具体例を省略しているが、茨城版では、説明の中で、具体的な例を複数、紹介し、その中で、ほめたり、叱ったりする効果とその方法を示している。他県版に比べて、若手教員にとっても理解しやすく、実践化につながる内容になっていると考える。

三点目は、ほめ方・叱り方を多面的に説明している点である。内容を構成する項目をみると、神奈川県版は「よいところをほめる」「『怒る』のではなく『しかる』」の2項目、鳥取版も「一人一人の児童生徒の性格や状況の把握」、「公平な対応」の2つの項目である。茨城版は、「行為(事実)を取り上げて叱る」、「一貫性を保つ」、「行為の背後にある児童生徒の心情等に目を向ける」、「児童生徒の側に立つ」の4つの項目である。茨城版は他県版に比べて多面的に、深く説明をしているのが特色である。

3 他県版のハンドブックから学ぶべき内容

茨城版では取り上げていない、他県版から学ぶべき内容を参考例として紹介する。

[結果だけでなく、過程をほめる]

・努力した結果だけをほめるのではなく、努力の過程をほめる。

鳥取版 P21

[タイミングを図る]

・タイミングを外さずにほめて、「先生は、私を見ていてくれる。私のよいところを認めてくれている」と児童が思えるようになることが大切です。(抜粋) 神奈川版 P9

・しかるときは、タイミングや場面を考えます。その場ですぐ指導した方がよいのか、場所を変えて個別に対応した方がよいのかを判断します。じっくり時間をとって児童の話聞くようにすると、いけないことをしてしまった原因が見えてきて、児童の思いを受け止めることができる場合があります。児童の方も、話をする中で自分の行為を冷静に見つめ反省することができます。しかったあとは、その児童の様子をよく見て、よいところを認めて言葉を掛けるなどの配慮をし、行動が前向きになるよう支援します。(抜粋) 神奈川版 P9

まとめ

本研究の成果として次の二つを挙げたい。

一つ目は、今回取り上げた「教材研究」、「学習指導案」、「板書」、「ほめ方・叱り方」について、茨城版は、他県版に比べて、これらの内容に多くの頁を割り当て、具体例を多く示し、ていねいに説明をしている。学習指導面に関わる指導技術を重視している姿勢がうかがえる。

二つ目は、茨城版と他県版を比較する中で、茨城版の特色だけでなく、他県版から学ぶべき内容を取り上げることで、両版の良さを合わせた基礎的な指導技術の内容を示すことができたのではないかと考える。

今回の研究を通して感じたことは、今回取り上げた四つの基礎的な指導技術は、過去から蓄積された普遍的な要素が多いということである。普遍的なよさは次の世代にも伝えていく必要があるが、その中にもあっても、「主体的・対話的で深い学び」「ICT の活用」等、時代とともに変わる要素を加味した基礎的な指導技術もあると考える。今回取り上げた基礎的な指導技術の中にもそれらが反映されているべき部分もあると感じた。

今回、調査の対象とした他県版のハンドブック等は独立行政法人教職員支援機構の各教育委員会等作成教材一覧からアクセスし、各教育委員会のホームページからダウンロードしたものである。地域的に偏りがあることや発行年に幅があることから、最新の資料や研究の趣旨にあったよりふさわしい資料があれば、差し替えて、引き続き研究を行い、さらに、今回取り上げなかった基礎的な指導技術についても研究対象としていきたい。

引用文献

- 愛媛県総合教育センター. 2015年. 『分かる 考える 伸びる 授業づくりの基礎・基本 ～10のポイント～目標と指導と評価の一体化を目指して』, 11.
- 福岡県教育センター. 2012年. 『平成24年度調査 教師が身に付けておきたい技術』, 17-18.
- 茨城県教育委員会. 2020年. 『教員ハンドブッカー信頼される教師を目指してー』, 43-44,46-48,108,138.
- 神奈川県立総合教育センター. 2009年. 『小学校初任教員のための 授業づくりハンドブック』, 9.
- 文部科学省. (HP)『補修授業校教師のためのワンポイントアドバイス』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/005.htm, 2020年6月30日20時52分閲覧.
- 大分県教育委員会. 2020年. 『新大分スタンダードの進め』(パンフレット), 平成31年3月(第3版).
- 徳島県立総合教育センター. 2020年. 『とくしま 授業技術の基礎・基本』, 3.
- 鳥取県教育センター. 2020年. 『教員研修ハンドブック』(初任者, 2年目, 3年目教員用), 21, 66.
- 富山県教育委員会. 2019年. 『教員研修ハンドブック』, 21.